

2023年3月期第2四半期決算概況（参考資料）

2022年11月8日

ニチハ株式会社
(コード番号7943、東証プライム・名証プレミア)

1. 2023年3月期第2四半期業績

(1) 連結業績 (百万円、%)

	2022/3期 上期実績	2023/3期 上期		前年同期比		予想比	
		予想(注)	実績	金額	%	金額	%
売上高	62,683	68,000	67,209	4,526	7.2	△790	△1.2
営業利益 (営業利益率)	6,616 (10.6%)	5,200 (7.6%)	5,465 (8.1%)	△1,151	△17.4	265	5.1
経常利益	6,861	5,300	6,767	△94	△1.4	1,467	27.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,235	3,700	4,791	△443	△8.5	1,091	29.5

(注) 予想は2022年5月11日発表の期初予想。

(2) 連結業績の説明

① 市場環境等

当社製品の主要マーケットである国内住宅市場においては、当第2四半期連結累計期間の新設住宅着工戸数は443千戸と前年同期比0.7%の減少となりました。これは、住宅価格の上昇などにより、主として注文住宅が減少したことによります。しかしながら、窯業系外装材の業界全体の国内販売数量は、住宅着工とのタイムラグに加え、前期の資材不足による工事遅れ分の取り戻しもあったことから、前年同期比2.3%（JIS規格対象外の12mm厚製品を含む基準）の増加となりました。

一方で、海外主要マーケットである米国市場については、新型コロナウイルス関連の行動規制緩和を背景に、商業施設等の投資が回復を見せておりますが、足下では、金利の急激な上昇を背景にやや減退傾向となっております。

② 売上高

国内では、窯業系外装材事業が業界全体の出荷数量増や8月からの価格改定に伴い前年同期比増収、金属系外装材事業もシェアアップ、価格改定により前年同期比で増収となりました。また、米国外装材事業も価格改定、円安の影響を含めて約30%の前年同期比増収となるなど好調に推移したことから、全体の売上高は672億9百万円と前年同期比45億26百万円（7.2%）の増収となりました。

③ 損益

資材・エネルギー価格の高騰によるコストアップ影響が利益を圧迫し、営業利益は54億65百万円と前年同期比11億51百万円（△17.4%）の減益となりました。経常利益は、円安に伴う為替差益等もあって、67億67百万円とほぼ前年並の水準となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に特別利益に計上した債務免除益4億67百万円がなくなったことから、47億91百万円と同4億43百万円（△8.5%）の減益となりました。

④ 配当

中間配当金につきましては、本年5月11日発表の期初予想のとおり、前年同期から6.5円増配の1株当たり普通配当48.5円とさせていただきます。

2. 2023年3月期通期業績予想

(1) 連結業績 (百万円、%)

	実績	上期		通期		
		前年同期比		予想 (注)	前期比	
		金額	率 %		金額	率 %
売上高	67,209	4,526	7.2	141,000	12,400	9.6
営業利益 (営業利益率)	5,465 (8.1%)	△1,151	△17.4	13,500 (9.6%)	923	7.3
経常利益	6,767	△94	△1.4	13,700	99	0.7
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	4,791	△443	△8.5	9,700	△446	△4.4
1株当たり配当金	48.5円	6.5円	-	97円	0円	-

(注) 通期予想は2022年5月11日発表の期初予想。

(2) 連結業績予想の説明

2023年3月期の通期の連結業績予想につきましては、2022年5月11日に公表いたしました業績予想(以下、「前回発表予想」)を変更しておりません。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は公表予想を上回りました。当第3四半期以降は国内の価格改定浸透による増収増益効果を見込むものの、資材・エネルギー価格が一段と騰勢を強めているなど、依然として事業環境の先行きが見通しにくいいため、前回発表予想を据え置いております。

なお、今後の動向等により業績予想の修正が必要となった場合には、適時に開示いたします。

(3) 期末配当予想

当期の期末配当予想につきましては、連結業績における親会社株主に帰属する当期純利益が期初予想のとおり97億円と見込まれることから、1株当たり48.5円を予想しております。これにより、第2四半期末の中間配当金48.5円と合わせ、通期では合計97円と前期同額の配当を予想しております。

3. 決算関係データ

(1) セグメント別売上高の主要内訳

(百万円)

	上期実績	2023/3期 前期同期比		通期予想 (注2)	2023/3期 前期比	
		金額	%		金額	%
売上高	67,209	4,526	7.2	141,000	12,400	9.6
外装材事業	62,378	4,298	7.4	131,000	11,843	9.9
国内	49,726	1,890	4.0	105,300	6,951	7.1
窯業系外装材	44,029	1,251	2.9	91,700	3,691	4.2
金属系外装材	5,696	639	12.6	13,600	3,259	31.5
海外	12,652	2,408	23.5	25,700	4,892	23.5
米国	11,120	2,553	29.8	22,600	4,940	28.0
(百万US\$)	(90.2)	(10.8)	(13.6)	(196.5)	(35.8)	(22.3)
中国他	1,531	△145	△8.7	3,100	△48	△1.5
その他(注1)	4,831	228	5.0	10,000	557	5.9

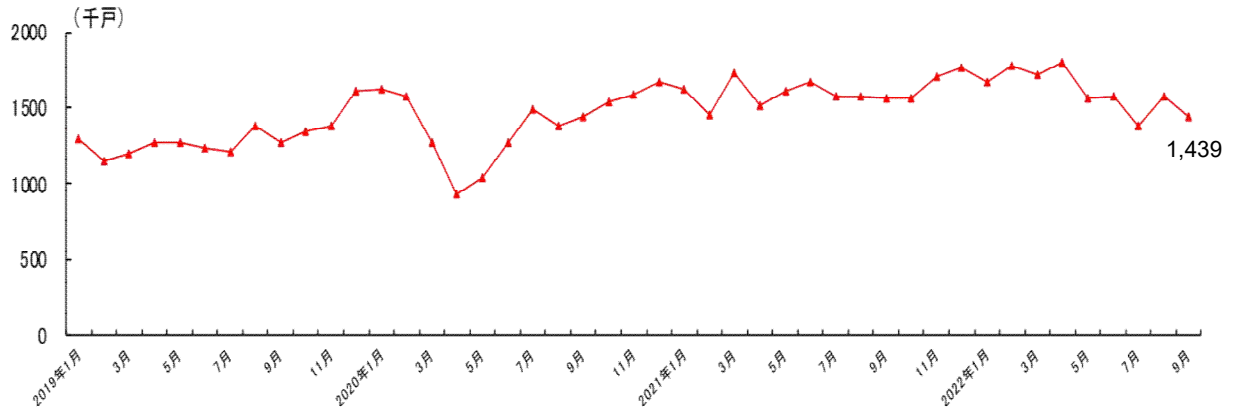
(注) 1. その他の内訳は、繊維板事業、工事事業、FP事業、その他事業。

2. 通期予想は2022年5月11日の期初予想。

(2) 国内市場環境

	年度	上期			下期			通期計	
		第1四半期	第2四半期	計	第3四半期	第4四半期	計		
住宅市場									
新設住宅着工戸数	千戸	2021	221 (8.1)	225 (7.2)	446 (7.6)	220 (6.1)	200 (4.9)	420 (5.6)	866 (6.6)
		2022	218 (△1.3)	225 (△0.0)	443 (△0.7)	—	—	—	—
うち一戸建	千戸	2021	109 (10.2)	114 (15.4)	223 (12.8)	114 (8.8)	93 (△1.3)	207 (4.0)	430 (8.4)
		2022	104 (△4.9)	105 (△7.2)	209 (△6.1)	—	—	—	—
窯業系外装材業界									
NYGサイディング販売数量	千坪	2021	7,075 (△1.3)	7,167 (4.1)	14,242 (1.3)	7,831 (3.0)	7,260 (3.6)	15,091 (3.2)	29,333 (2.3)
[日本窯業外装材協会] (JIS規格対象外の12mm厚製品を含む基準)		2022	7,243 (2.4)	7,327 (2.2)	14,570 (2.3)	—	—	—	—
当社									
窯業系サイディング販売数量	千坪	2021	3,880 (1.8)	3,913 (4.3)	7,793 (3.1)	4,245 (1.8)	3,903 (△0.0)	8,148 (0.9)	15,941 (1.9)
(JIS規格対象外の12mm厚製品を含む基準)		2022	3,890 (0.3)	3,975 (1.6)	7,865 (0.9)	—	—	—	—
NYGシェア	%	2021	54.8 (+1.6p)	54.6 (+0.1p)	54.7 (+0.9p)	54.2 (△0.6p)	53.8 (△1.9p)	54.0 (△1.3p)	54.3 (△0.2p)
		2022	53.7 (△1.1p)	54.3 (△0.3p)	54.0 (△0.7p)	—	—	—	—

(3) 米国市場環境
住宅着工件数



(出所)米商務省

Architecture Billings Index (ABI)



(出所)米国建築設計士協会(AIA)

注)ABIは米国建築士協会(AIA)が商業用ビル等の設計景況感を調査したデータです。商業・工業用建物等の建設を約9~12ヶ月先行する指標で、50を超えれば増加傾向、50を下回れば減少傾向となります。ここでは商業・工業のデータを掲載しています。